



|   |        |                    |      |     |
|---|--------|--------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (経営学ゼミナール) |      |     |
|   | ゼミ担当者名 | 李 廷珉 (い ちょんみん)     |      |     |
|   | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)     |      |     |
|   | 開講年次   | 2年次                | 開講期間 | 通年  |
|   | 開講時限   | 水曜日 1限             | 単位数  | 2単位 |


|           |  |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ    | 企業と社会—社会における企業という視点の重要性を学ぶ—  |
| ゼミの概要     | <p>企業は真空状態の中で活動しているわけではない。常に社会の一部を構成するステイクホルダーとの相互関係の中で存続している。企業は、一方では、社会を構成するステイクホルダーからさまざまな影響を受けながらも、他方では、そのステイクホルダーに対して影響を及ぼす存在である。しかも、現代では、コンプライアンスや企業倫理、CSR 経営が強調される時代にあり、企業をはじめとするすべての組織を、常に社会との関係の中で複眼的に捉える必要はますます高まってきているといえる。</p> <p>講義では、上記のような問題意識に基づき、企業と社会の問題について、日本の企業経営に関する最新のトピックスと諸外国の企業経営の事例を比較しながら、できるだけ、多角的に企業経営の現状にアプローチしていく。そのことによって、人間が1人で生きられないのと同じように、企業も単独では存在できないという、「社会における企業」、「社会的制度としての企業 (ドロッカー)」という視座の構築を、この講義は目的とする。</p>  |
| ゼミの到達目標   | 社会の中での企業の役割や責任について理解を深め、その問題点を考えることができる。   |
| 授業時間外の学習  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日頃から新聞とその他の経済紙に目をとおすようにしておくこと。</li> <li>2. 経済・経営専門書だけでなく、文学・哲学・歴史・宗教・生物などの科学関連書を1冊だけ選び、時間をかけてじっくり読んでおくこと。</li> </ol>   |
| 履修条件      | 経済学と経営学の入門科目、そしてコンピューター入門科目の単位の履修が必要。  |
| テキスト      | 佐々木利廣、大室悦賀編著『入門 企業と社会』中央経済社、2015年。   |
| 参考文献・資料   | 岩井克人、小宮山宏『会社は社会を変えられる—社会問題と事業を〈統合〉する CSR 戦略』プレジデント社、2014年。   |
| 成績評価の方法   | 平常点 (20%)、小テスト (30%)、期末試験 (50%) を勘案し総合的に評価する。  |
| オフィスアワー   | 毎週火曜日 13:00~14:30  |
| 学生へのメッセージ | <p>私たちのゼミナールでは、毎週報告者による発表を行います。皆がテキストの各章を振り分け、各自分担当を決めます。報告に当てられた人は担当の章をレジメーに作成し、授業の時間に分かりやすく皆に説明し報告します。他の皆はその週の章を必ず事前に読んできて、授業の時間に「質問」をし、報告者を含む皆が議論に参加します。一つのテーマに関して、皆がその意味を解釈し、問題点について論じ合うことが、この授業の目的となっています。</p> <p>また、私たちは、学園祭やソフトボール大会など、大学の行事の多くをゼミナール活動の一環として行っていますが、その際、私たちが大切にしている言葉は「明るく、楽しく、強く」です。この授業は「質実剛健」な人を目指します。「質」は質朴、「実」は誠実の意で、「質実」は飾り気がなく、真面目なこと。「剛健」は心や体が強くたくましいことです。ですから、ゼミナールの皆は、大学での学びを通じて、強くたくましい自分になる必要があります。これが私たちのゼミナールの目標です。</p> <p>もし私たちのゼミナールに看板を掲げるとすれば、「自分を変えるための法則を見つけるゼミ」とでも言いましょうか。</p> <p>勉強は大変難しいかもしれませんが、志のある方ならどなたでも歓迎します。</p> |

| 授業計画 |  |      |  |
|------|--|------|--|
| 第1回  | 企業と社会の見方<br>①企業と社会の関係を考える視点  | 第17回 | 企業と地域・NPO<br>① NPO とは、定義、他組織との違い                                       |
| 第2回  | 企業と社会の見方<br>②企業と社会の関係をどう捉えるか   | 第18回 | 企業と地域・NPO<br>② NPO の経営資源   |
| 第3回  | 経営スタイルの変遷<br>③1970年代：株主（経済）資本主義                                      | 第19回 | 企業と地域・NPO<br>③ NPO と地域活性化ーその新たな関係ー                                     |
| 第4回  | 経営スタイルの変遷<br>④1980年代：ステイクホルダー論                                       | 第20回 | 企業社会の「つながり」と<br>社会的課題のガバナンス<br>① 企業とステイクホルダーの関係＝全体像                    |
| 第5回  | 経営スタイルの変遷<br>⑤1990年代：Corporate Social Responsibility<br>CSR：企業の社会的責任 | 第21回 | 企業社会の「つながり」と<br>社会的課題のガバナンス<br>② 企業とステイクホルダーの関係＝つながり                   |
| 第6回  | 経営スタイルの変遷<br>⑥2000年代：Social Enterprise/Social Business<br>社会的企業／社会起業 | 第22回 | 企業社会の「つながり」と<br>社会的課題のガバナンス<br>③ 企業のウチガワとソトガワ：<br>つながりのマネジメント          |
| 第7回  | コーポレート・ガバナンス<br>① 議論の発祥：所有と支配の分離                                     | 第23回 | 企業社会の「つながり」と<br>社会的課題のガバナンス<br>④ CSR CSV Sustainability New Governance |
| 第8回  | コーポレート・ガバナンス<br>② 日本企業のコーポレート・ガバナンス                                  | 第24回 | ソーシャル・ビジネス<br>① 背景と定義  |
| 第9回  | コーポレート・ガバナンス<br>① コーポレート・ガバナンスの新潮流                                   | 第25回 | ソーシャル・ビジネス<br>② ソーシャル・ビジネスの特徴  |
| 第10回 | 企業と従業員<br>②内部ステイクホルダーとしての従業員   | 第26回 | ソーシャル・マーケティング<br>① マーケティングの考え方の進化                                      |
| 第11回 | 企業と従業員<br>③ 日本的雇用慣行、人事制度   | 第27回 | ソーシャル・マーケティング<br>② ソーシャル・マーケティングの実際                                    |
| 第12回 | 企業と従業員<br>③ 今日の課題ーワーク・ライフ・バランス                                       | 第28回 | ソーシャル・マーケティング<br>③ ソーシャル・マーケティングの今後                                    |
| 第13回 | 企業と消費者<br>① 消費者はどのような存在か   | 第29回 | 新しい企業社会<br>ー複雑化する社会問題とその複雑性ー   |
| 第14回 | 企業と消費者<br>② 企業と消費者の「信頼」関係  | 第30回 | 新しい企業社会<br>ーソーシャル・ビジネスの模倣と移転ー  |
| 第15回 | 企業と消費者<br>③ 消費者主導の価値創造<br>ー価値共創の企業経営ー                                | 第31回 | 新しい企業社会<br>ー学習能力ー<br>ーソーシャルマネジメントの開拓（重要性）ー                             |
| 第16回 | 前期定期試験   | 第32回 | 後期定期試験   |

|   |        |                     |      |     |
|---|--------|---------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (財務会計ゼミナール) |      |     |
|   | ゼミ担当者名 | 國井法夫                |      |     |
|   | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)      |      |     |
|   | 開講年次   | 2年次                 | 開講期間 | 通年  |
|   | 開講時限   | 水曜日1限               | 単位数  | 2単位 |

|           |  |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ    | 財務会計を知る  |
| ゼミの概要     | 財務会計に関連する本を読み、毎回、担当者を決めて報告してもらおう。その後、報告分野についての質疑応答・議論をして理解を深めてゆく。  |
| ゼミの到達目標   | 財務会計の概要を知る。  |
| 授業時間外の学習  | 簿記検定試験・FP試験等の勉強を独自に進める。  |
| 履修条件      | 欠席しない。   |
| テキスト      | 桜井久勝著『会計学入門』(日経文庫)から始める  |
| 参考文献・資料   | 特になし   |
| 成績評価の方法   | 授業態度(30%)・学習姿勢(30%)・テスト等(40%)を参考に総合的に評価する。   |
| オフィスアワー   | 毎週水曜日5時間目  |
| 学生へのメッセージ | まず、自分の目標をしっかり持つこと。目標が決まったらそれに向けてまっしぐらに進むこと。近年、学生諸君の学習姿勢を見ていると楽をしよう楽をしようという方向に進んでいるように見えます。自分の目指す目標に到達するためには努力なしには到達できません。目標に一步でも近づけるように日々精進してください。 |

| 授業計画 |                                  |      |                                 |
|------|----------------------------------|------|---------------------------------|
| 第1回  | 自己紹介・ゼミの進め方                      | 第17回 | 第5章 棚卸資産と売上原価 1 棚卸資産の範囲         |
| 第2回  | 第1章 会計の役割 1 会計とは 2 管理会計と財務会計     | 第18回 | 第5章 棚卸資産と売上原価 2 棚卸資産の取得原価       |
| 第3回  | 第1章 会計の役割 3 会社法による会計             | 第19回 | 第5章 棚卸資産と売上原価 3 棚卸資産の原価配分       |
| 第4回  | 第1章 会計の役割 5 金融取引法による会計 6 税法による会計 | 第20回 | 第5章 棚卸資産と売上原価 4 棚卸資産の期末評価       |
| 第5回  | 第2章 利益計算の仕組み 1 企業活動の描写 2 簿記の構造   | 第21回 | 第6章 固定資産と減価償却 1 固定資産の範囲と区分      |
| 第6回  | 第2章 利益計算の仕組み 3 損益法と財産法 4 財務諸表の体系 | 第22回 | 第6章 固定資産と減価償却 2 固定資産の取得原価       |
| 第7回  | 第3章 利益計算のルール 1 会計基準の必要性 2 設定     | 第23回 | 第6章 固定資産と減価償却 3 固定資産の原価配分       |
| 第8回  | 第3章 利益計算のルール 企業会計原則の一般原則         | 第24回 | 第6章 固定資産と減価償却 4 繰延資産            |
| 第9回  | 第3章 利益計算のルール 損益計算書原則             | 第25回 | 第7章 金融活動の資産と損益 1 余剰資産の運用        |
| 第10回 | 第3章 利益計算のルール 貸借対照表原則             | 第26回 | 第7章 金融活動の資産と損益 2 現金及び預金         |
| 第11回 | 第3章 利益計算のルール 会計基準の国際的統合          | 第27回 | 第7章 金融活動の資産と損益 3 有価証券の範囲と区分     |
| 第12回 | 第4章 売上高と売上債権 1 企業活動と財務諸表         | 第28回 | 第7章 金融活動の資産と損益 4 有価証券の取得原価と期末評価 |
| 第13回 | 第4章 売上高と売上債権 2 営業循環における収益の認識     | 第29回 | 第7章 金融活動の資産と損益 5 資産運用の損益        |
| 第14回 | 第4章 売上高と売上債権 利益計算への影響の比較         | 第30回 | 第8章 営業上の負債と他人資本 1 負債の範囲と区分      |
| 第15回 | 第4章 売上高と売上債権 収益認識基準の適用・売上債権      | 第31回 | 第8章 営業上の負債と他人資本 2 他人資本調達に伴う負債   |
| 第16回 | 前期定期試験                           | 第32回 | 後期定期試験                          |

|  |        |                     |      |     |
|--|--------|---------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (外国経済ゼミナール) |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 坂元 浩一               |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)      |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次                 | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 水曜日1限<br>6月第3週より開始  | 単位数  | 2単位 |

|           |  |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ    | 外国経済を総合的に学ぶ  |
| ゼミの概要     | <p>本ゼミナールでは、国際経済学の基礎となるマクロ経済学などの基礎を学びながら、外国経済の基本と、その土台となる社会や文化を学びます。必要に応じて、歴史も扱います。具体的なデータを収集して、図表などを作ります。</p> <p>経済学の知識が不十分でも、わかりやすく教授するように努めます。学ぼうという意識を持っていることが重要です。</p> <p>講義形式と学生のグループワークからなります。後期では、事例国について総合的な分析を行うようにします。また、必要に応じて、ディベート大会を行います。</p> <p>地域として、世界経済、地域経済の分析を元に、欧州、途上国など外国経済を扱います。また、世界をリードする欧州の経済を理解するためにはその社会や文化をよく知る必要があります。講義に対応する月ごとの欧州の行事を取り上げます。</p>  |
| ゼミの到達目標   | 外国経済の基本とその土台となる社会や文化をしっかりと理解できるようになります。  |
| 授業時間外の学習  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業前にはプリントの該当箇所に必ず目を通しておいてください。</li> <li>2. 前回講義に関する確認を行います。前回講義の復習をしっかりと行ってください。</li> <li>3. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。</li> </ol>  |
| 履修条件      | 経済学の科目を履修している方が望ましいです。少なくとも経済について学ぼうという意識を持ってください。   |
| テキスト      | なし   |
| 参考文献・資料   | 坂元浩一『教養系の国際経済論—総合的理解から次の一歩まで—』大学教育出版 (2012)<br>坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頸草書房 (1996)   |
| 成績評価の方法   | <b>【小テスト(15%)、講義内発表(35%)、レポート(50%)】</b><br>※出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。   |
| オフィスアワー   | 毎週月曜日・火曜日 14:40~16:40  |
| 学生へのメッセージ | <p>この4月に新任教員として就任しました。ゼミは、学生である皆さんと教員の相互作用で作っていくものです。新しいゼミの歴史を作るというつもりで参加しませんか。第一期生としてフレッシュにスタートしませんか。</p> <p>ゼミは大学生活においてもっとも重要な活動のひとつであると考えます。一人で学ぶのではなく、教員の指導に基づいて所属学生の皆と一緒に貴重な体験をする場です。皆で頑張った、楽しかった、という思い出をたくさん作りましょう。皆さんの人生にとってかけがえのない友人をたくさん作ってください。</p> <p>授業時間は当然しっかりとやりますが、時間外のインフォーマルな活動も重要です。たとえば、コンパ、合宿です。廉価にすることを基本として、頻度や内容などは皆さんに相談します。</p> <p>私は、これまで東京や静岡の大学で長く教鞭をとってきました。また、多くの海外の国を訪問したことがあります。発展途上国が中心であり、アフリカからアジアまでカバーしています。援助調査でフランスなど欧州にも行きます。また、日本や欧米の経済も扱います。私が訪問した国や町の様子を話しながら、これまでの長い経験を授業に生かします。</p> |

授業計画（下記の前半の講義と後半のグループワークは交叉して進むことがあります）


|      |                  |      |                     |
|------|------------------|------|---------------------|
| 第1回  | イントロダクション、全体の説明  | 第17回 | グループワークの立案（役割分担）    |
| 第2回  | 世界経済の現状          | 第18回 | 基礎データ解析（経済）         |
| 第3回  | 地域経済の現状          | 第19回 | 基礎データ解析（経済外の指標）     |
| 第4回  | 先進国経済の現状         | 第20回 | 経済分析（経済）            |
| 第5回  | 欧州経済の現状          | 第21回 | 経済分析（経済外の指標）        |
| 第6回  | 欧州の歴史            | 第22回 | 中間発表（前半グループ）        |
| 第7回  | 欧州の社会と文化         | 第23回 | 中間発表（後半グループ）        |
| 第8回  | 欧州の事例国の歴史        | 第24回 | データ再解析（経済）          |
| 第9回  | 欧州の事例国の社会と文化     | 第25回 | データ解析（経済外の指標）       |
| 第10回 | 発展途上国経済の現状       | 第26回 | 経済再分析（経済）           |
| 第11回 | 発展途上国の歴史         | 第27回 | 経済再分析（経済外の指標）       |
| 第12回 | 発展途上国の社会と文化      | 第28回 | 最終発表（前半グループ）        |
| 第13回 | 途上国の事例国の歴史       | 第29回 | 最終発表（後半グループ）        |
| 第14回 | 途上国の事例国の社会と文化    | 第30回 | 追加のエクササイズ（ディベート準決勝） |
| 第15回 | 宗教と経済            | 第31回 | 追加のエクササイズ（ディベート決勝）  |
| 第16回 | グループワークの立案（全体構成） | 第32回 | 総括、必要に応じて小テスト       |

|  |        |                            |      |     |
|--|--------|----------------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (国際協力論ゼミナール)       |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 高千穂安長 (Yasunaga TAKACHIHO) |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)             |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次                        | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 水曜日1限                      | 単位数  | 2単位 |

|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | 内なる国際化への貢献  |
| ゼミの概要     | <p>日本は加工貿易立国です。国としては、原材料を輸入し、加工・製品化し、輸出し、その代金で国民を幸せにすると同時に、原材料の輸入代金を確保するという方式は変わっていません。</p> <p>そのためには、原材料を供給してくれる国々との良好な関係は不可欠です。このため、これらの国々が困っていることを助けてあげる、日本の良さを分かってもらうなどの活動は不可欠です。</p> <p>このような活動をどのように行うか、どんな行動が求められるか、その効果はどうかなどを明らかにし、その基本姿勢である「オーナーシップ」、「パートナーシップ」や行動に伴う副作用などを身につけ、地域活動、企業活動などで効果的な活動が行えるようにします。</p> |
| ゼミの到達目標   | 国際協力についての基礎的な知識を習得し、自分の意見をある程度言えるようになります。   |
| 授業時間外の学習  | 秋田県パワーアップ事業などの課題に取り組みます。  |
| 履修条件      | なし  |
| テキスト      | なし  |
| 参考文献・資料   | 外務省ホームページ <a href="http://www.mofa.go.jp">http://www.mofa.go.jp</a><br>国際協力機構(JICA)ホームページ <a href="http://www.jica.co.jp">http://www.jica.co.jp</a>   |
| 成績評価の方法   | 平常点(50%)、討議参加度(20%)、作業参加度(30%)  |
| オフィスアワー   | 火曜1限 ただし、在室時は原則対応します。   |
| 学生へのメッセージ | <p>1年間は8,760時間であり、休むことなく減少していきます。講義、部活などとは別に1日に1時間毎日勉強しても365時間(全体の4%)できるだけです。従って、昨日より今日、今日より明日と成長していくために、「今、この時間」を大切に、自分の成長を確かなものにしてください。</p> <p>社会では、色々な年齢、経歴、性格の人々が分業の利益を上げるべく、組織的な活動をしています。そのため、一定のルールに基づいた行動をしています。社会人に必要なこれらのルールを円滑にする「挨拶」、「時間」、「敬語」、「品質」について徹底します。</p>  |

| 授業計画 |                                     |      |                               |
|------|-------------------------------------|------|-------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション<br>ゼミ活動の方向性、学生の課業、成績評価など  | 第17回 | 国際社会の理解 3<br>ヨーロッパの理解(ロシア)    |
| 第2回  | 国際社会の理解 1<br>地理的理解、地勢的理解他           | 第18回 | 国際社会の理解 3<br>ヨーロッパの理解(中欧諸国)   |
| 第3回  | 国際社会の理解 2<br>資源賦存状況                 | 第19回 | 国際社会の理解 3<br>ヨーロッパの理解(CIS 諸国) |
| 第4回  | 国際社会の理解 3<br>アジアの理解(東アジア/中国)        | 第20回 | 国際社会の歴史・制度<br>国際紛争            |
| 第5回  | 国際社会の理解 3<br>アジアの理解(東アジア/台湾)        | 第21回 | 国際社会の歴史・制度<br>国際交易制度、国際通貨制度   |
| 第6回  | 国際社会の理解 3<br>アジアの理解(東アジア/韓国)        | 第22回 | 国際社会の歴史・制度<br>市場経済と計画経済       |
| 第7回  | 国際社会の理解 3<br>アジアの理解(東南アジア)          | 第23回 | 国際社会の歴史・制度<br>国連              |
| 第8回  | 国際社会の理解 3<br>アジアの理解(南西アジア、中央アジア)    | 第24回 | 国際社会の歴史・制度<br>世界銀行、国際通貨基金     |
| 第9回  | 国際社会の理解 3<br>アメリカの理解(北アメリカ/アメリカ合衆国) | 第25回 | 国際社会の歴史・制度<br>APEC、NAFTA、AFTA |
| 第10回 | 国際社会の理解 3<br>アメリカの理解(北アメリカ/カナダ)     | 第26回 | 国際社会の歴史・制度<br>日本外務省、国際協力機構    |
| 第11回 | 国際社会の理解 3<br>アメリカの理解(北アメリカ/メキシコ)    | 第27回 | 国際社会の課題<br>開発目標               |
| 第12回 | 国際社会の理解 3<br>アメリカの理解(南アメリカ/中央アメリカ)  | 第28回 | 国際社会の課題<br>貧困                 |
| 第13回 | 国際社会の理解 3<br>アメリカの理解(南アメリカ/南米)      | 第29回 | 国際社会の課題<br>砂漠化、食糧問題           |
| 第14回 | 国際社会の理解 3<br>ヨーロッパの理解(西洋/英、仏、独)     | 第30回 | 国際社会の課題<br>教育                 |
| 第15回 | 国際社会の理解 3<br>ヨーロッパの理解(西洋/西、伊)       | 第31回 | 国際社会の課題<br>紛争解決               |
| 第16回 | 国際社会の理解 3<br>ヨーロッパの理解(西洋/北欧)        | 第32回 | 総復習<br>課題についてゼミ生間で討議、最適解発表    |



|  |        |                      |      |     |
|--|--------|----------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (地域政策論ゼミナール) |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 野口 秀行                |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)       |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次                  | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 水曜日1限                | 単位数  | 2単位 |

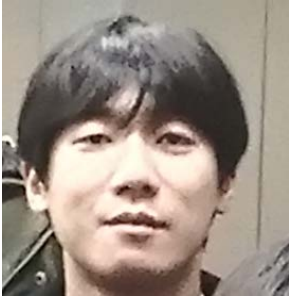
|           |  |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ    | 地域経済の活性化・地域づくりの基礎的研究   |
| ゼミの概要     | ゼミ生が中心となり研究テーマを絞り、自主的に運営して行くことにしています。ゼミナール1では、従来とは異なり地方活性化を目的とするハンズファンドが登場したり、投資家によるソーシャルインパクト債の発行や仮想通貨のシステムを利用したICO (イニシアティブ・コイン・オフリング) など学ぶべきことが増えるとともに、多様な知識の習得と仕組みの理解に注力します。地域政策の基礎を確立したうえで、ゼミ生相互のディスカッションにより研究の深化とともに、実社会で必要とされるコミュニケーション能力の強化とディベートの実践により社会人を滋養して行く方針です。自身で強い問題意識をもって、社会を分析する能力、時代の先を読み解く力を身に付けて欲しいと思っています。  |
| ゼミの到達目標   | 地域活性化のための政策と地域づくりの手法の習得  |
| 授業時間外の学習  | 秋田駅周辺の市街地再開発業・田沢湖のわらび座・小坂町の康楽館などを視察  |
| 履修条件      | 地域づくり論や観光経済学の履修経験者   |
| テキスト      | プリントおよび指定する課題図書  |
| 参考文献・資料   | 落合陽三「日本再興」、野口秀行「地方創生」  |
| 成績評価の方法   | 提出したレポートの評価(50%)及び報告の対応(50%)   |
| オフィスアワー   | 火曜日及び水曜日   |
| 学生へのメッセージ | <p>少子高齢化が進み地方経済は疲弊しています。しかし、そうした中で、いま地方は座して死を待つのか、果敢に挑戦して新たに活路を見出すのかが問われているのだとも言えます。アベノミクスの総仕上げとしても、地方創生に向けた地方自治体の意識改革や地方の中小企業の生産性向上が、最大の課題となっています。安倍政権は、そのための制度改革を着実に推し進めていると言えるでしょうが、社会がそれに追いついていないのが実情です。</p> <p>加えて世界で進行しつつある第4次産業革命 (IoT (もののインターネット)、BD (ビッグデータ)、AI (人工知能)) の覇権をどの国が掴むのかも注目されます。その中で、地方の行政や企業の第4次産業革命への対処と進展著しいICTの活用による地域活性化策を考察して行きたいと思っています。</p> <p>まだ地域経済の活性化について、法制度や整備手法あるいは資金調達方法などの基礎を身に付けて欲しいと思います。</p> |

| 授業計画 |                                |      |                                |
|------|--------------------------------|------|--------------------------------|
| 第1回  | 前期研究テーマの決定、課題図書を選定に関する議論を中心に   | 第17回 | 後期研究テーマの決定、課題図書を選定に関する議論を中心に   |
| 第2回  | 前期課題図書を選定に関するディスカッション          | 第18回 | 前期課題図書を選定に関するディスカッション          |
| 第3回  | 課題図書・資料の解説                     | 第19回 | 課題図書・資料の解説                     |
| 第4回  | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション① | 第20回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション① |
| 第5回  | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション② | 第21回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション② |
| 第6回  | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション③ | 第22回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション③ |
| 第7回  | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション④ | 第23回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション④ |
| 第8回  | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑤ | 第24回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑤ |
| 第9回  | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑥ | 第25回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑥ |
| 第10回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑦ | 第26回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑦ |
| 第11回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑧ | 第27回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑧ |
| 第12回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑨ | 第28回 | レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑨ |
| 第13回 | 総括レポート作成①                      | 第29回 | 総括レポート作成①                      |
| 第14回 | 総括レポート作成②                      | 第30回 | 総括レポート作成②                      |
| 第15回 | 総括レポート作成③                      | 第31回 | 総括レポート作成③                      |
| 第16回 | 総括レポートの評価と夏季休暇の課題図書を選定         | 第32回 | 総括レポートの評価と春季休暇の課題図書を選定         |

|  |        |                  |      |     |
|--|--------|------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナールⅠ（環境学ゼミナール） |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 村中 孝司（むらなか たかし）  |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群（第1グループ）    |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次              | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 水曜日1限            | 単位数  | 2単位 |


|           |  |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ    | <p>1. 自然環境の保全と環境価値の評価を考える。</p> <p>2. 食と農業から環境問題を考える。</p>   |
| ゼミの概要     | <p>環境学ゼミナールでは、地球環境の保全を、自然環境と人間社会の双方の立場から考え、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。さまざまな情報を収集、分析し、自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、環境学ゼミナールでは、フィールドワーク（野外調査）を重視しています。座学の勉強だけでは、本質的な問題を発見することは難しいからです。フィールドワークによって自然界や社会における観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①専門書輪読、②研究活動の2つです。毎週1回のゼミの時間帯には、輪読や研究に沿った発表と議論を中心に行います。①輪読では、環境学、農業、自然風景などの基本的知識と考え方を身につける勉強を行います。2年生のゼミでは、河合明宣・堀内久太郎『アグリビジネスと日本農業』をメンバー全員で読み、内容を理解します。農業経営の仕組みから食生活、外食産業、食品の流通と安全性まで幅広く農業を捉えた教科書です。また、②研究活動では、複数のメンバーによって1つのテーマを決め、相互に協力しながら研究を行います。また、自主研究テーマを各自で設定し、年度末までに3ページ程度の研究レポートを作成します。研究レポートは、教員が何度も添削し、質の高い文章表現ができるように指導します。なお、自主研究のテーマは、環境、食、農林漁業、生物多様性、自然風景などから各人が関心のあるテーマを、教員と相談しながら見つけることから始まります。これは、卒業論文として完成させるための準備です。2年生のゼミは、研究のスタートラインと位置づけますので、1年間をかけて研究テーマを見つけてください。</p> |
| ゼミの到達目標   | <p>農と食に関する問題、エネルギー問題、生物多様性に関する問題など、多様な視点から環境や農業・林業に関するテーマを調査・議論し、環境に対する理解を深めます。</p> <p>ゼミは学生の皆さんが作りあげることが基本と考えていますので、教員が教壇に立って講義を行うことはあまりありません。他のメンバーの発表をよく聴き、学び、質問や意見を述べる力を養ってください。また、メンバー相互の議論によって知恵と理解力を高め、教員に立ち向かってほしいと思っています。</p>   |
| 授業時間外の学習  | <p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、説明の方法を学んでください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。あらゆる場所に、興味深いテーマは落ちています。</p>  |
| 履修条件      | <p>特になし。自然科学概論Ⅰ・Ⅱを履修している、もしくは同時に履修することを推奨します。</p>  |
| テキスト      | <p>河合明宣・堀内久太郎『アグリビジネスと日本農業』放送大学教材<br/>（入手不可能の場合は、第1回のゼミで相談します）</p>   |
| 参考文献・資料   | <p>ゼミナール中に紹介します。</p>   |
| 成績評価の方法   | <p>輪読(30%)、自主研究およびゼミナール全体での共同研究(50%)、定期試験(20%)<br/>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>  |
| オフィスアワー   | <p>火曜日 14:40～17:10、水曜日 16:20～17:10 ほか随時。</p>   |
| 学生へのメッセージ | <p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。</p> <p>ゼミナール研修会（夏期）は、毎年、白神山地へ日帰りで行きます。</p> <p>環境学ゼミナールの卒業生は、食品、教育、農業、人材派遣、郵便事業、販売（小売）、運輸等、さまざまな業種へ就職していますので、多様な職種・業種への支援を行います。</p>  |

| 授業計画 |  |      |                               |
|------|--|------|-------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>ゼミナールでの取組概要、教科書紹介<br>1年間の目標設定   | 第17回 | 後期ガイダンス<br>目標達成度の確認           |
| 第2回  | フィールドワーク①<br>自然・社会現象を観察する                | 第18回 | フィールドワーク⑥<br>調査の実践            |
| 第3回  | フィールドワーク②<br>自然現象を記録する<br>観察記録の方法        | 第19回 | 輪読⑧<br>「第8章 外食産業と食生活」         |
| 第4回  | フィールドワーク③<br>資料や文献に学ぶ<br>図書館や論文調査の方法     | 第20回 | 輪読⑨<br>「第9章 食品の安全性、フードシステム」   |
| 第5回  | 輪読①<br>「第1章 豊かな食生活を持続させるために」             | 第21回 | 輪読⑩<br>「第10章 生産と消費を結ぶ流通」      |
| 第6回  | 輪読②<br>「第2章 日本農業の家族経営」                   | 第22回 | フィールドワーク⑦<br>観察力の育成           |
| 第7回  | フィールドワーク④<br>自然・社会現象から問題を見出す<br>「問題」とは何か | 第23回 | 輪読⑪<br>「第11章 農産物流通の変化と農業への影響」 |
| 第8回  | 輪読③<br>「第3章 職業として魅力ある法人経営」               | 第24回 | 輪読⑫<br>「第12章 日本の食料自給」         |
| 第9回  | 輪読④<br>「第4章 農業経営の多角化と経営戦略」               | 第25回 | 自主研究③<br>中間報告                 |
| 第10回 | 輪読⑤<br>「第5章 農業経営の異業種間連携」                 | 第26回 | 自主研究④<br>ゼミナール共同研究に関する情報収集・分析 |
| 第11回 | 自主研究①<br>自主研究レポートについて<br>レポート・論文の執筆手順と方法 | 第27回 | 自主研究⑤<br>ゼミナール共同研究に関する論文指導    |
| 第12回 | 輪読⑥<br>「第6章 農業と資材産業」                     | 第28回 | 自主研究⑥<br>引用の方法                |
| 第13回 | 輪読⑦<br>「第7章 食品製造業の展開と農業」                 | 第29回 | 自主研究⑦<br>自主研究成果報告（グループA）      |
| 第14回 | フィールドワーク⑤<br>野外調査の方法                     | 第30回 | 自主研究⑧<br>自主研究成果報告（グループB）      |
| 第15回 | 自主研究②<br>ゼミナール共同研究について                   | 第31回 | 自主研究⑨<br>自主研究成果報告（グループC）      |
| 第16回 | 前期のまとめ、前期定期試験                            | 第32回 | 後期定期試験                        |

|  |        |                      |      |     |
|--|--------|----------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (金融論ゼミナール I) |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 山本 俊                 |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)       |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次                  | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 水曜日 1限               | 単位数  | 2単位 |

|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | <ul style="list-style-type: none"> <li>銀行などの金融関連分野への就職を念頭に、「考え抜く力」を養成します。</li> <li>経済分野、特に、金融や地域経済をテーマとした課題研究学習の基盤を形成します。</li> </ul>  |
| ゼミの概要     | <p>みなさんは、どんなことなら頑張ることが出来ますか。それは好きなこと、関心のあることだと思います。だからこそ、金融論ゼミナールでは、あなたの将来の希望進路や、あなたの関心のあるテーマをとことん大切にします。そして「これだ!!」と思えるテーマを見つけたら、大きく3つの研究学習を通じて、「考える力」を身に付け、「頼れる自分」になって欲しいと思います。</p> <p>第1は、2年次で中心となる学習であり、「これだ!!」と思うテーマに関する教科書や論文の中で、最も代表的なもの、あるいは「これが自分のテーマだ」、「勉強したいことに一番近い」と思うものを見つけ、熟読し、分からないことを一つひとつ調べ、理解していくことです。そうすれば、そのテーマの中に、より興味深い部分を見つけることができます。それが「あなたを頼りがいのある自分」にしてくれる成長の種、すなわち研究課題となるのです。</p> <p>第2は、3年次で中心となる学習であり、研究課題に対する自分なりの答えを見つけ出すことです。ここでは、授業で学習した広範な知識や見方があなたをサポートしてくれます。さらに、全体像を見渡す指導教員と探究のキャッチボールを繰り返すことで、自ずと成果はまとまり、それはあなたの自己評価を高めてくれるはずです。ここでは仲間との協働や勉強会の楽しみにも気付いて欲しい。</p> <p>第3は、3年次または4年次で中心となる学習であり、課題研究の成果をまとめ、学内外のゼミナール大会等に挑戦することです。こうした大会に申込み、期限を設けることが、成果を上げるための良い仕組みとなります。その期限は指導教員をも拘束し、学生と教員を目標に向けて努力させます。また大会で、好成績を上げるには、工夫が必要です。そこで、あなたらしさを存分に発揮して下さい。こうした研究学習で培われた「考える力」や「大会への出場経験」は就職活動でも、社会人になってからもあなたを力強く助けてくれるはずです。</p> |
| ゼミの到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>2年生では、研究学習成果のゼミ内での単独報告または学内でのグループ報告を目標とします。</li> </ul>   |
| 授業時間外の学習  | <ul style="list-style-type: none"> <li>各回のゼミナールは報告の場であり、課外学習が基本となります。</li> </ul>  |
| 履修条件      | <ul style="list-style-type: none"> <li>「こうなりたい」という明確な目標と、やる気だけがあれば十分です。</li> </ul>  |
| テキスト      | <ul style="list-style-type: none"> <li>清水幾太郎 (1959) 『論文の書き方』岩波新書。</li> </ul>  |
| 参考文献・資料   | <ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナルの動画教材やプリントを必要に応じて提供します。</li> </ul>  |
| 成績評価の方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験：20%、ゼミ内または学内外の報告会への参加状況：80%</li> </ul>  |
| オフィスアワー   | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週水曜日、木曜日の4限、5限 (研究室在室時は基本的に対応します)</li> </ul>  |
| 学生へのメッセージ | <ul style="list-style-type: none"> <li>経済学の学習が面白いかどうか、経済学を自分の武器にできるかどうか、それはみなさんの取り組む姿勢で決まります。お互い全力で勉強し、頼りがいのある自分になろう!!</li> <li>例年、金融機関等への就職を希望する学生が多く選択してくれます。そうしたゼミの先輩は秋田県の地方銀行や協同組織金融機関、信用保証協会、日本銀行などで活躍しています。同じ志を持った者同士で切磋琢磨できるのも金融論ゼミナールの魅力の一つです。また、そうした職場で、実際に活躍している先輩とのネットワーク創りも応援して行きます。</li> </ul>   |


| 授業計画 |                         |      |                        |
|------|-------------------------|------|------------------------|
| 第1回  | いつか使えると信じ込むか？今使い始めるか？   | 第17回 | パワーポイントの作成① 分析結果からスタート |
| 第2回  | 使えるから面白い、だから学びたい。先輩の場合！ | 第18回 | パワーポイントの作成② 文章は使うな！    |
| 第3回  | 先輩は何から始めたのか？意欲の創出！      | 第19回 | パワーポイントの作成③ 主張を図示すれば？  |
| 第4回  | 将来どんな人材になるのか？どこに就職するか？  | 第20回 | プレゼンテーション① 頼りは画面だけ！    |
| 第5回  | 先輩の成果を見てみよう。構造はどれも同じ！   | 第21回 | プレゼンテーション② 目と体のフル活用！   |
| 第6回  | 研究学習の基本ルール① 清水幾太郎先生     | 第22回 | 実践報告1回目 グループ1          |
| 第7回  | 研究学習の基本ルール② 大学教育の限界     | 第23回 | 実践報告1回目 グループ2          |
| 第8回  | 研究学習の基本ルール③ 答えはデータの中？   | 第24回 | 実践報告1回目 グループ3          |
| 第9回  | 研究学習の基本ツール① 記述統計と図表作成   | 第25回 | 実践報告1回目 グループ4          |
| 第10回 | 研究学習の基本ツール② 回帰分析とは何か？   | 第26回 | 実践報告2回目 グループ1          |
| 第11回 | 研究学習の基本ツール③ 効率性分析の概要    | 第27回 | 実践報告2回目 グループ2          |
| 第12回 | 研究学習の基本ツール④ 産業連関表の概要    | 第28回 | 実践報告2回目 グループ3          |
| 第13回 | 研究学習の基本ツール⑤ 人口推計方法の概要   | 第29回 | 実践報告2回目 グループ4          |
| 第14回 | 研究学習の基本ツール⑥ 基準化と指標化の概要  | 第30回 | 使えるから面白い！だから学びたい！      |
| 第15回 | テーマ設定。中身よりプロセスを経験。      | 第31回 | 定期試験                   |
| 第16回 | 夏休みの学習会について             | 第32回 |                        |

|   |        |                    |      |     |
|---|--------|--------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (刑事法ゼミナール) |      |     |
|   | ゼミ担当者名 | 秋山 栄一              |      |     |
|   | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)     |      |     |
|   | 開講年次   | 2年次                | 開講期間 | 通年  |
|   | 開講時限   | 火曜日3限              | 単位数  | 2単位 |

|           |  |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ    | 刑事法とは何か  |
| ゼミの概要     | 本ゼミナールでは、「刑法入門」の講義を前提として、刑法学、刑事訴訟法学および刑事政策学(刑事学)を概観し、刑事法学における基礎的な論点を検討する。ゼミナールの進行については、まず、対話形式で各刑事法の分野の内容を概観する。その後、学生自身が興味・関心をもつテーマを選択し、順次報告・発表していき、皆で検討するという形式を予定している。ただし、後述の授業計画は、学生の理解度、履修状況により、変更されることがある。           |
| ゼミの到達目標   | 学生各々が興味と関心をもった刑事学上の基礎的な論点・テーマについて、個別報告及び皆での検討ができるようになる。<br>刑事法学を手段として、他者の存在を自覚し、物事に対する深い洞察力とそれに対する的確な判断力を養う素地を養う。  |
| 授業時間外の学習  | 日頃、マスコミなどを通じて報道される社会の現象に関心をもつこと。<br>指定されたテキスト、資料を事前に検討することを怠らないこと。<br>各々設定したテーマについて、適宜図書館等を活用し、調べ、まとめるために、ゼミナール以外の時間の準備を怠らないこと   |
| 履修条件      | 刑事法学に興味と関心をもっていると同時に、ゼミナールのルールを遵守できること。<br>刑法入門が履修済みであること、刑法総論・各論を履修していること。  |
| テキスト      | 適宜、指示する。   |
| 参考文献・資料   | 適宜、指示する。   |
| 成績評価の方法   | 定期試験 50%、報告・姿勢 50%の割合で厳正に評価する。   |
| オフィスアワー   | 原則として、火曜1限(9:00~10:30)・火曜4限(14:40~16:10)<br>※ 事前に連絡をもらえるとありがたい   |
| 学生へのメッセージ | ゼミナール I は、学生が本格的に学問を行うためのスタートに立つ準備段階といえます。知的世界の深みの一端をともに感じるようになるためにも、事前の準備をしっかりと行っていきましょう。また、自分のテーマに興味と関心を持つことは当然のことですが、自分以外のゼミのメンバーのテーマにも関心をもつことが重要です。それが自分のテーマの理解にも役立つことは間違いありません。ゼミの仲間とともに、多くの楽しみを見つけることもできればと考えています。 |


| 授業計画 |             |      |                      |
|------|-------------|------|----------------------|
| 第1回  | ガイダンス、刑法の基礎 | 第17回 | 刑事訴訟法の基礎<br>刑事手続の流れ① |
| 第2回  | 構成要件該当性①    | 第18回 | 刑事手続の流れ②             |
| 第3回  | 〃 ②         | 第19回 | わが国の刑事訴訟法の特徴         |
| 第4回  | 〃 ③         | 第20回 | 犯罪とその原因              |
| 第5回  | 違法性①        | 第21回 | 統計と犯罪現象              |
| 第6回  | 〃 ②         | 第22回 | 犯罪者の処遇               |
| 第7回  | 責任①         | 第23回 | 行刑と更生保護              |
| 第8回  | 〃 ②         | 第24回 | まとめ<br>学生のテーマの設定の確認  |
| 第9回  | 未遂          | 第25回 | 各々のテーマについて学生個別報告・検討1 |
| 第10回 | 共犯①         | 第26回 | 〃 2                  |
| 第11回 | 〃 ②         | 第27回 | 〃 3                  |
| 第12回 | 個人的法益に対する罪① | 第28回 | 〃 4                  |
| 第13回 | 〃 ②         | 第29回 | 〃 5                  |
| 第14回 | 社会的法益に対する罪① | 第30回 | 〃 6                  |
| 第15回 | 〃 ②         | 第31回 | フィードバック②             |
| 第16回 | 国家的法益に対する罪  | 第32回 | 試験                   |



|  |        |                   |      |      |
|--|--------|-------------------|------|------|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (刑法ゼミナール) |      |      |
|  | ゼミ担当者名 | 岡崎 頌平             |      |      |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第 1 グループ)  |      |      |
|  | 開講年次   | 2 年次              | 開講期間 | 通年   |
|  | 開講時限   | 火曜日 3 限           | 単位数  | 2 単位 |


|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | 刑法の基本判例を読む  |
| ゼミの概要     | 本ゼミナールでは、刑法総論および刑法各論全般について扱います。もっとも、開講年次の関係から、前期では刑法各論（個人的法益に対する罪を主な範囲とします）に関する判例を扱うこととし、後期では刑法総論（構成要件・違法・責任・未遂・共犯）に関する判例を扱うこととします。なお、後期については、刑法総論を履修済みであることをふまえて、受講者が個別に選択した判例について報告した上で、参加者全員による議論を行って、刑法総論の理解を深めてもらう予定です。  |
| ゼミの到達目標   | 受講者は、本ゼミナールを履修することによって、刑法（総論・各論）に関する基礎的知識に基づいて判例を考察し、以下のことができるようになる。<br>1) 刑法（総論・各論）の主要論点に関する判例・学説の整理・説明<br>2) 刑法（総論・各論）の主要判例に関する事実の概要と判例の要旨の説明   |
| 授業時間外の学習  | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書等を用いて、各回のテーマについてあらかじめ調べること。</li> <li>新聞等で犯罪と刑罰に関する問題に触れるなどして、刑事法への関心をもつこと。</li> </ul>   |
| 履修条件      | 刑法入門の単位を修得済みであること。<br>刑法総論・刑法各論を同時に履修すること。  |
| テキスト      | 山口厚・佐伯仁志『刑法判例百選 I・II [第 7 版]』有斐閣(2014 年)  |
| 参考文献・資料   | 山口厚『基本判例に学ぶ刑法総論』『基本判例に学ぶ刑法各論』成文堂 (2010・2011) ; 山口厚『新判例から見た刑法 [第 3 版]』有斐閣(2015) ; 大塚裕史ほか『基本刑法 I 総論 [第 2 版]』『基本刑法 II 各論 [第 2 版]』日本評論社(2016・2018) ; 西田典之『刑法総論 [第 2 版]』『刑法各論 [第 7 版] (橋爪隆補訂)』弘文堂 (2010・2018) ; 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』有斐閣 (2013)  |
| 成績評価の方法   | 授業への参加状況（報告・質疑応答など）60%、定期試験 40%   |
| オフィスアワー   | 火曜日 14 : 40 ~ 16 : 10 ; 金曜日 9 : 30 ~ 10 : 30  |
| 学生へのメッセージ | <p>法学を学ぶ際に、出発点となるのは条文です。したがって、あまりにも当然のことを述べることとなりますが、法律学科の法律系の専門科目と同様に六法を必ず持参してください。その際に、重要なことは、コンパクトなものでも構わないので、最新のものであるかどうかです。周知のように、昨年(2017 年)、刑法の性犯罪処罰規定が大きく改正されました。まず、この改正に対応した六法を持っていることを確認してください。</p> <p>次に、この授業は、単一方向のものではなく、双方向のものになりますので（もっとも、既述したように、刑法総論・各論を同時に履修しながらのゼミナールであることを考えると、すべての回でこれを維持できるとは思っていません）、積極的な発言を期待しています。</p> <p>最後に、これも当然のことを述べることとなりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です（なお、無断欠席等があった場合、その事情によっては、それ以降の履修を認めないこともあり得ると、あらかじめお知らせしておきます）。</p> |

| 授業計画 |                     |      |          |
|------|---------------------|------|----------|
| 第1回  | イントロダクション[講義の進め方など] | 第17回 | 第1回判例報告① |
| 第2回  | 生命・身体・自由に対する罪①      | 第18回 | 第1回判例報告② |
| 第3回  | 生命・身体・自由に対する罪②      | 第19回 | 第1回判例報告③ |
| 第4回  | 名誉・信用・業務に対する罪①      | 第20回 | 第1回判例報告④ |
| 第5回  | 名誉・信用・業務に対する罪②      | 第21回 | 第1回判例報告⑤ |
| 第6回  | 財産犯①（窃盗罪・強盗罪Ⅰ）      | 第22回 | まとめ①     |
| 第7回  | 財産犯②（窃盗罪・強盗罪Ⅱ）      | 第23回 | 第2回判例報告① |
| 第8回  | 財産犯③（窃盗罪・強盗罪Ⅲ）      | 第24回 | 第2回判例報告② |
| 第9回  | 財産犯④（詐欺罪・恐喝罪Ⅰ）      | 第25回 | 第2回判例報告③ |
| 第10回 | 財産犯⑤（詐欺罪・恐喝罪Ⅱ）      | 第26回 | 第2回判例報告④ |
| 第11回 | 財産犯⑥（横領罪・背任罪Ⅰ）      | 第27回 | 第2回判例報告⑤ |
| 第12回 | 財産犯⑦（横領罪・背任罪Ⅱ）      | 第28回 | まとめ②     |
| 第13回 | 財産犯⑧（その他の財産犯）       | 第29回 | 罪数論①     |
| 第14回 | 放火罪                 | 第30回 | 罪数論②     |
| 第15回 | 国家作用に対する罪           | 第31回 | 全体のまとめ   |
| 第16回 | 報告判例の選択；定期試験        | 第32回 | 定期試験     |

|  |        |                    |      |     |
|--|--------|--------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (裁判法ゼミナール) |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 川口 誠               |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)     |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次                | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 火曜日 3限             | 単位数  | 2単位 |


|           |  |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ    | 司法・裁判の現状と課題  |
| ゼミの概要     | <p>司法改革により、憲法・行政、民事、刑事を含む司法制度全体が大きく変化しています。その現状を、制度・組織・手続き・人の面から把握し、さらに今後の方向を考えます。憲法（統治機構）とも関連し、3年の行政法各論、民事訴訟法、刑事訴訟法の総論部分、制度論部分を含み、それらの科目への橋渡しの性質も有します。</p> <p>つまり、憲法、民法、刑法といった実体法とそれを現実的に実現する手続法との関連性を理解するためのゼミとなります。</p> <p>ただ、担当者が民事法を専門とすることから、内容的には民事法分野に関連する事項に若干比重を置いた形となります。</p> <p>ゼミ員の分担で、各テーマを順次検討する形で進めます。担当者がテーマについて調査し、報告して、関連事項も含めて議論をしながら、先へ進む方法です。</p>  |
| ゼミの到達目標   | 司法・裁判制度、およびそれに携わる人についての基礎的理解   |
| 授業時間外の学習  | 憲法（統治機構）の司法の部分をしっかり勉強しておくこと。<br>テキストをしっかり読んでおくこと。  |
| 履修条件      | 憲法入門、統治機構、刑法入門、民法入門の履修済みであること。また、司法実務、法曹・公務員仕事入門、刑法総論、行政法総論を履修済みか履修中が望ましい。   |
| テキスト      | 市川他著『現代の裁判 [第7版]』（有斐閣、2018）  |
| 参考文献・資料   | 適宜指摘する。  |
| 成績評価の方法   | 報告 60%、期末試験 30%に、授業参加・態度 10%で、総合評価。  |
| オフィスアワー   | 毎週火曜日 10:40-12:10、木曜 9:00-10:30  |
| 学生へのメッセージ | <p>自分の担当テーマの調査、勉強を責任感をもってすること。報告が誤っていると、他のゼミ員に誤った情報を提供することになります。また、自分の担当テーマだけではなく、他のゼミ員の報告に、積極的に議論参加できるように、毎回のテーマについてしっかり予習してください。</p> <p>勉強以外のゼミのイベント（大学祭、懇親会など）に積極的に関わってください。アクティブな人がたくさんいるほどゼミは活発に、また楽しくなります。勉強と勉強以外のこととを一緒に協力してすることの中から、お互いに信頼できる友人が見つかると思います。</p> <p>ゼミが勉学の切磋琢磨の場となるだけでなく、ゼミを通じてゼミ員相互の信頼を深め、卒業後も連絡を取り合う仲間を見つける場、機会となることができればと思います。</p> <p>最後に、このゼミに限らず、ゼミは欠席しないこと。必ず電話、メールが届く、つまり連絡がとれるようにすること。</p> |

| 授業計画 |   |      |  |
|------|---|------|--|
| 第1回  | ガイダンス<br>法の解釈・適用と裁判                       | 第17回 | 民事執行<br>(強制執行・担保権実行)                   |
| 第2回  | 司法権の範囲と機能                                 | 第18回 | 倒産処理手続きなど                              |
| 第3回  | 裁判所の種類と機能 ①                               | 第19回 | 法曹教育の改革と法曹養成制度①                        |
| 第4回  | 裁判所の種類と機能 ②                               | 第20回 | 法曹教育の改革と法曹養成制度②                        |
| 第5回  | 違憲審査制と憲法裁判                                | 第21回 | 法律家の種類と機能<br>① 裁判官・弁護士・検察官             |
| 第6回  | 「憲法の番人」としての裁判所<br>セーフティーネットとしての裁判所        | 第22回 | ② 調停人、執行官、公証人など                        |
| 第7回  | 司法制度改革と現代的課題(1) 民事①                       | 第23回 | ① 裁判所書記官、裁判所事務官、検察事務官<br>など            |
| 第8回  | 民事②                                       | 第24回 | ② 企業法務部など                              |
| 第9回  | 司法制度改革と現代的課題(2) 刑事①                       | 第25回 | 各種の裁判とその手続きⅢ・刑事<br>裁判を受ける権利と刑事手続き、刑事裁判 |
| 第10回 | 刑事②                                       | 第26回 | 犯罪と捜査                                  |
| 第11回 | 各種の裁判とその手続きⅠ 全体像①                         | 第27回 | 犯罪と裁判                                  |
| 第12回 | 各種の裁判とその手続きⅠ 全体像②                         | 第28回 | 少年刑事事件、その他                             |
| 第13回 | 各種の裁判とその手続きⅡ・民事<br>民事司法制度(1) 裁判外紛争解決(ADR) | 第29回 | 各種の裁判とその手続きⅣ・行政訴訟<br>主観訴訟と客観訴訟         |
| 第14回 | 民事司法制度(2) 民事訴訟①                           | 第30回 | 取消訴訟、国家賠償訴訟の概略                         |
| 第15回 | 民事訴訟②                                     | 第31回 | 学年末試験                                  |
| 第16回 | 家事紛争処理手続きなど                               | 第32回 |  |

|  |        |                      |      |     |
|--|--------|----------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (安全保障論ゼミナール) |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 佐藤克枝                 |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)       |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次                  | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 水曜日 1限               | 単位数  | 2単位 |

|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | 安全保障について学び、問題点を発見する。  |
| ゼミの概要     | <p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についても解説していきます。</p> <p>後半は、各自が興味を持ったテーマについて報告を行い、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p> |
| ゼミの到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国家の成立要件 (住民・領土・政府・外交能力) を理解している。</li> <li>2 領域及び日本の領土問題の概要を理解している。</li> <li>3 防衛政策の基本 (専守防衛)、日米安全保障体制が説明できる。</li> <li>4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を理解している。</li> <li>5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。</li> <li>6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。</li> <li>7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて理解している。</li> </ol>                             |
| 授業時間外の学習  | 国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。  |
| 履修条件      | 憲法入門、統治機構論、世界政治学、法律入門のいずれかを履修済みであること。   |
| テキスト      | 授業中に指示する。   |
| 参考文献・資料   | 防衛白書 (平成29年度版)、外交青書 (平成29年度版)、田村重信等『日本の防衛法制』(内外出版)、同『日本の防衛政策』(内外出版)、森本敏『日本の安全保障』(実務教育出版)、潮匡人『日本人が知らない安全保障学』(中公新書)、土田愛彦『防衛ってなに』(鷹書房弓プレス)   |
| 成績評価の方法   | 授業への参加状況 (報告・質疑応答など) 60%、定期試験 40%   |
| オフィスアワー   | 火曜日 14:40~16:10 水曜日 14:40~16:10   |
| 学生へのメッセージ | <p>国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。</p> <p>学生の関心が早期に定まり、研究発表に入ることができるようにするため、前半はこれまで体系的に学んだことがない学生もいることを前提に授業を進めます。</p> <p>後期では、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。</p>  |


| 授業計画 |                  |      |                |
|------|------------------|------|----------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>安全保障の意義 | 第17回 | 学生による発表①<br>討議 |
| 第2回  | 面接<br>国家の成立要件、領域 | 第18回 | 学生による発表②<br>討議 |
| 第3回  | 領土問題             | 第19回 | 学生による発表③<br>討議 |
| 第4回  | 防衛政策の基本①         | 第20回 | トピック・まとめ       |
| 第5回  | 防衛政策の基本②         | 第21回 | 学生による発表④<br>討議 |
| 第6回  | 防衛政策の方針          | 第22回 | 学生による発表⑤<br>討議 |
| 第7回  | 政策決定機関           | 第23回 | 学生による発表⑥<br>討議 |
| 第8回  | 治安維持と防衛の差異       | 第24回 | トピック・まとめ       |
| 第9回  | 緊急事態対処時の行動及び権限   | 第25回 | 学生による発表⑦<br>討議 |
| 第10回 | 武力攻撃事態における法体系    | 第26回 | 学生による発表⑧<br>討議 |
| 第11回 | 国民保護法            | 第27回 | 学生による発表⑨<br>討議 |
| 第12回 | 国際連合の主要機関及び役割    | 第28回 | トピック・まとめ       |
| 第13回 | 紛争の平和的解決手段       | 第29回 | 学生による発表⑩<br>討議 |
| 第14回 | 地域的安全保障体制        | 第30回 | 学生による発表⑪<br>討議 |
| 第15回 | 国際平和協力活動         | 第31回 | 全体のまとめ         |
| 第16回 | 定期試験             | 第32回 | 定期試験           |

|  |        |                |      |     |
|--|--------|----------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (憲法学)  |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 佐藤 寛稔          |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ) |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次            | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 火曜日 3限         | 単位数  | 2単位 |

|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | 憲法の基礎!  |
| ゼミの概要     | <p>憲法学、行政法学の不朽の名著である芦部信喜著 高橋和之補訂『憲法 (第6版)』(岩波書店)、藤田宙靖『行政法入門 (第7版)』(有斐閣)を通読することによって、日本の憲法学の骨格を「客観的」に知ることを目指します。具体的な進行は、それぞれの毎回のゼミの時間を3つに分け、①その会のテーマについての発表、②発表に対する討論、③理解度を試す問題演習(成績には反映しません)を行います。</p> <p>発表を担当する人は発表用レジュメ(A3用紙1枚裏表)を作ってもらい、それを使って、20分から30分程度の発表をしてもらいます。他の履修学生には毎回のテーマに関連するテキストとともに、関連判例や関連教材を事前に読んできた上で、発表者の発表内容について討論してもらいます。法律学には、数学や物理のような「正解」はありません。討論では、まずは、思い切って自分の考えを話してください。</p> |
| ゼミの到達目標   | 芦部憲法学のエッセンスを理解することができる。   |
| 授業時間外の学習  | テキストを繰り返し読むこと、関連する代表的な判例(教材)を読むことが求められます。   |
| 履修条件      | 過去の成績は一切問いません。但し、私から連絡があったときに必ず応答すること、学校行事、ゼミ行事への積極的な参加が求められます。また、ゼミは「学ぶ場」ですので、それにふさわしい整容を心がけられる人のみ履修認めます。  |
| テキスト      | 芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法 (第6版)』(岩波書店)  |
| 参考文献・資料   | 憲法判例百選 I・II (第6版) その他、必要な文献を適宜指示します。  |
| 成績評価の方法   | 発表 30%、討論の参加への積極性 50%、学年末試験 20%<br>*発表をしなかった場合にはそのことのみによって不可とします。欠席回数が10回以上の者は試験を受けることができません。   |
| オフィスアワー   | 火曜日 9:00~10:30 水曜日 9:00~10:30   |
| 学生へのメッセージ | <p>憲法は、欧米諸国で起こった市民革命以来、最強の権力主体である国家と対置する個人の権利を守るために作られた様々な工夫の結晶体です。そのため法律学的だけでなく、欧米の文化や近代史の観点からも考察することができる分野です。そのため法律学科の学生はもちろん、経済学科や観光学科の学生も自らの所属学科の学問と関連するテーマが見つかるはずですよ。</p> <p>また、全ての公務員には憲法尊重擁護義務が課されます。公務員を目指す学生にとっては憲法学は不可欠の素養です。是非、履修してください。</p>   |


| 授業計画 |                 |      |         |
|------|-----------------|------|---------|
| 第1回  | ガイダンス・面談        | 第17回 | 学問の自由   |
| 第2回  | 憲法と立憲主義         | 第18回 | 表現の自由①  |
| 第3回  | 日本憲法史－明治憲法      | 第19回 | 表現の自由②  |
| 第4回  | 日本憲法史－日本国憲法     | 第20回 | 経済的自由権  |
| 第5回  | 国民主権の原理         | 第21回 | 人身の自由   |
| 第6回  | 天皇制             | 第22回 | 参政権     |
| 第7回  | 平和主義            | 第23回 | 社会権     |
| 第8回  | 人権宣言の歴史・人権の観念   | 第24回 | 権力分立の原理 |
| 第9回  | 人権の内容           | 第25回 | 国会      |
| 第10回 | 人権の享有主体         | 第26回 | 内閣      |
| 第11回 | 人権と公共の福祉        | 第27回 | 裁判所     |
| 第12回 | 私人間における人権の保障と限界 | 第28回 | 財政      |
| 第13回 | 生命・自由・幸福追求権     | 第29回 | 地方自治    |
| 第14回 | 法の下での平等         | 第30回 | 違憲審査制   |
| 第15回 | 思想・良心の自由        | 第31回 | まとめ     |
| 第16回 | 信教の自由           | 第32回 | 学年末テスト  |



|   |        |                   |      |     |
|---|--------|-------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (民法ゼミナール) |      |     |
|   | ゼミ担当者名 | 高橋佑輔              |      |     |
|   | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)    |      |     |
|   | 開講年次   | 2年次               | 開講期間 | 通年  |
|   | 開講時限   | 火曜日3限             | 単位数  | 2単位 |


|           |  |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ    | 民法の知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。  |
| ゼミの概要     | <p>判例等の事例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行い、また、関連する法分野の知識の確認を行う。報告担当者以外の参加者にも発言を求め(指名する)、担当教員との対話方式でゼミナールを進行する。</p> <p>ゼミナール I (2年次) は、テキスト・条文の輪読により民法の基礎知識習得を目指す。また、実際の民事判例を数人で組になって報告する。</p> <p><b>本ゼミナールでは、基礎知識の確認のため月1回程度学習到達度確認テストを実施します。</b></p> <p><b>履修人数により異なりますが、履修者全員が少なくとも年2回以上(通常4回程度)ゼミナール内で発表を担当することになります。また、原則として発表準備はゼミナール時間外に行ってもらいます(発表内容等に関する教員への相談は歓迎します)。</b></p> |
| ゼミの到達目標   | 民法の知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。公務員試験等で問われる民法の知識を確実に身に付ける。  |
| 授業時間外の学習  | ゼミナールで扱った範囲について、問題演習等を通じて復習すること。報告担当者は、報告において引用する資料等も確認して報告準備を行うこと。  |
| 履修条件      | 民法入門履修程度の民法知識があること(実際に履修しているかは問わない)。民法総則、物権法、債権総論、債権各論、親族・相続の各科目を卒業までに履修すること。  |
| テキスト      | 履修者と相談して指定する。  |
| 参考文献・資料   | 適宜指示する。  |
| 成績評価の方法   | ゼミナール内での報告(75%)と試験結果(25%)に学習到達度確認テスト結果等を加味して評価する。  |
| オフィスアワー   | 火曜10:40~12:10 金曜13:00~14:30  |
| 学生へのメッセージ | <p>民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。参加希望者は毎回判例集と六法、民法のテキストを手元に準備することが必須です。</p> <p><b>毎回の出席は当然ですので、理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。</b></p>  |

| 授業計画 |                                     |      |                           |
|------|-------------------------------------|------|---------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                               | 第17回 | 学習状況の確認・事例検討              |
| 第2回  | 事例検討                                | 第18回 | 事例検討                      |
| 第3回  | 事例検討                                | 第19回 | 事例検討                      |
| 第4回  | 発表準備・調査（図書館での判例DB検索など）              | 第20回 | 学習到達度確認テスト⑤<br>発表準備・調査・面談 |
| 第5回  | 学習到達度確認テスト①<br>発表準備・調査・面談（発表準備状況確認） | 第21回 | 発表準備・調査・面談                |
| 第6回  | 事例検討                                | 第22回 | 事例検討                      |
| 第7回  | 発表・事例検討                             | 第23回 | 発表・事例検討                   |
| 第8回  | 発表・事例検討                             | 第24回 | 学習到達度確認テスト⑥<br>発表・事例検討    |
| 第9回  | 学習到達度確認テスト②<br>発表・事例検討              | 第25回 | 発表・事例検討                   |
| 第10回 | 発表・事例検討                             | 第26回 | 発表・事例検討                   |
| 第11回 | 発表・事例検討                             | 第27回 | 発表・事例検討                   |
| 第12回 | 発表・事例検討                             | 第28回 | 学習到達度確認テスト⑦<br>発表・事例検討    |
| 第13回 | 学習到達度確認テスト③<br>発表・事例検討              | 第29回 | 発表・事例検討                   |
| 第14回 | 事例検討                                | 第30回 | 事例検討                      |
| 第15回 | 前期のまとめ                              | 第31回 | 後期のまとめ                    |
| 第16回 | 学習到達度確認テスト④                         | 第32回 | 期末試験                      |

|   |        |                    |      |      |
|---|--------|--------------------|------|------|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (心理学ゼミナール) |      |      |
|   | ゼミ担当者名 | 瀧澤 純 (たきざわ じゅん)    |      |      |
|   | 科目分類   | 専門科目群 (第 1 グループ)   |      |      |
|   | 開講年次   | 2年次                | 開講期間 | 通年   |
|   | 開講時限   | 火曜日 3 限            | 単位数  | 2 単位 |


|           |  |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ    | 心理学の議論に親しみ、自分にとって新しい知識を得る。   |
| ゼミの概要     | 前期はチームで、心理学の実験を体験し、実験結果を分析し、レポートを作成する。後期は個人で、自身のテーマに基づいて調査を実施し、調査結果の分析と発表資料の作成を行う。   |
| ゼミの到達目標   | 心についての科学的思考力を身につける。社会、人間、動物に関する心理について、検証するための考え方や方法論を理解することができるようになる。  |
| 授業時間外の学習  | 時間外で課題に取り組む時間が多い。実験や調査の実施だけでなく、準備にも多くの時間を費やす必要がある。   |
| 履修条件      | 以下の①と②をともに満たすことが必要である。<br>①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、1年生ゼミナール(法律・観光)の3科目」から1科目以上の単位を取得していること<br>②ゼミの初回に出席すること。欠席する場合は、瀧澤まで事前に連絡すること       |
| テキスト      | 使用しない。学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探すことが必要である。  |
| 参考文献・資料   | Nolen-Hoeksema ほか (著)『ヒルガードの心理学 第16版』(ブレイン出版, 2015年)   |
| 成績評価の方法   | 定期試験 40%、提出物の内容評価 40%、取り組み姿勢 20%の割合で総合的に評価する。  |
| オフィスアワー   | 月曜日の3時限(13:00から14:30)、金曜日の3時限(13:00から14:30)  |
| 学生へのメッセージ | このゼミでは、学ぶことに対する意欲と、その意欲を表す積極的な姿勢が必要になります。事前連絡なしでの欠席は認めません。<br>瀧澤ゼミ2年生から4年生での合同の合宿など、企画の運営を任せる場合があります。<br>このゼミの履修条件は、来年度以降は変わる可能性があります。 |

| 授業計画 |                           |      |                    |
|------|---------------------------|------|--------------------|
| 第1回  | ガイダンス：ゼミの概要、教員自己紹介、学生自己紹介 | 第17回 | 質問項目の考案①           |
| 第2回  | 教員の研究を説明                  | 第18回 | 質問項目の考案②           |
| 第3回  | 心理学の概要                    | 第19回 | 質問項目の改善            |
| 第4回  | 実験の紹介、チーム作り               | 第20回 | 質問項目の調整、結果の予想      |
| 第5回  | 実験の準備                     | 第21回 | 質問項目の統合            |
| 第6回  | 実験の実施①：前半組                | 第22回 | 調査の完成、印刷と実施        |
| 第7回  | 実験の実施②：後半組                | 第23回 | データ入力              |
| 第8回  | データ入力、データ統合               | 第24回 | 度数分布表、平均値の算出       |
| 第9回  | データ分析①：平均値、標準偏差           | 第25回 | データ分析①：除外するデータ、群分け |
| 第10回 | データ分析②：図表の作成              | 第26回 | データ分析②：平均値、標準偏差    |
| 第11回 | レポートの作成①                  | 第27回 | データ分析③：図表の作成       |
| 第12回 | レポートの作成②                  | 第28回 | 発表資料作成①：画面で見せる資料   |
| 第13回 | レポートの作成③                  | 第29回 | 発表資料作成②：紙で配る資料     |
| 第14回 | 前期の報告会①：前半組               | 第30回 | 後期の報告会①：前半組        |
| 第15回 | 前期の報告会②：後半組               | 第31回 | 後期の報告会②：前半組        |
| 第16回 | 前期のまとめ、後期のテーマ相談           | 第32回 | 後期定期試験             |

|  |        |                    |      |     |
|--|--------|--------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (観光学ゼミナール) |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 井上 寛               |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)     |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次                | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 火曜日3限              | 単位数  | 2単位 |

|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | 観光学の基礎を実践的に学ぼう  |
| ゼミの概要     | <p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、社会全体が「観光」に大きな関心を寄せています。そして、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てています。外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか？その部分も重要ではありますが、観光学はもっと深く、面白くて役に立つ学問です。</p> <p>これまでに講義で学んだ観光学について実践的に学ぶのが「観光学ゼミナール」のテーマです。実践的に観光学を学び、卒業後に観光のプロフェッショナルを目指すためには、フィールドワークの「技」を実践から身につけることも重要です。観光地理や旅行業の資格にチャレンジすることも有効です。ですから、観光学ゼミナールでは、各自の興味・関心をもとに、メンバーと話し合ったうえで研究テーマを決定し、基礎的な観光学のグループ研究を1年かけて行います。前にも述べたように、観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」することを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p> |
| ゼミの到達目標   | 実践的に観光学を学ぶ方法の基本を理解することができる。   |
| 授業時間外の学習  | ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。  |
| 履修条件      | これまでに観光論入門Ⅰの単位を履修していること、または今年度履修すること。観光学に興味をもち、ゼミ行事に積極的に参加する意欲をもっていること。   |
| テキスト      | 山下晋司編『観光学キーワード』有斐閣、2011年(観光論入門Ⅰで使用したテキスト)   |
| 参考文献・資料   | ゼミナールの時間に適宜指示します。   |
| 成績評価の方法   | 定期試験(30%)・平常点(30%)・行事への参加(20%)・提出物(20%)   |
| オフィスアワー   | 毎週月曜日 2時限(10:40~12:10)<br>毎週金曜日 3時限(13:00~14:30)  |
| 学生へのメッセージ | <p>ゼミ担当の井上寛は、学生時代「障害者・高齢者の旅行」という研究テーマに出会い、一貫して観光を学び続けています。</p> <p>観光学はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光学を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思えます。</p> <p>その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめ旅行やコンパなどのゼミ行事も、受け身ではなく積極的に参加するようにしてください。</p>   |

| 授業計画 |                 |      |                 |
|------|-----------------|------|-----------------|
| 第1回  | 前期オリエンテーション     | 第17回 | 後期オリエンテーション     |
| 第2回  | 未来の目標を語ろう       | 第18回 | 研究課題中間報告Ⅰ       |
| 第3回  | 観光学の基礎を学ぶ1      | 第19回 | 研究課題中間報告Ⅱ       |
| 第4回  | 観光学の基礎を学ぶ2      | 第20回 | データ集計の方法1       |
| 第5回  | 観光学の基礎を学ぶ3      | 第21回 | データ集計の方法2       |
| 第6回  | 研究課題ディスカッション1-1 | 第22回 | 観光学の理論を学ぶ1      |
| 第7回  | 研究課題ディスカッション1-2 | 第23回 | 観光学の理論を学ぶ2      |
| 第8回  | 研究課題ディスカッション1-3 | 第24回 | 観光学の理論を学ぶ3      |
| 第9回  | 研究課題ディスカッション1-4 | 第25回 | 研究課題ディスカッション2-1 |
| 第10回 | ふりかえりⅠ          | 第26回 | 研究課題ディスカッション2-2 |
| 第11回 | 観光フィールドワークの方法1  | 第27回 | 研究課題ディスカッション2-3 |
| 第12回 | 観光フィールドワークの方法2  | 第28回 | 研究課題ディスカッション2-4 |
| 第13回 | 観光フィールドワークの方法3  | 第29回 | 研究発表Ⅰ           |
| 第14回 | 観光フィールドワークの方法4  | 第30回 | 研究発表Ⅱ           |
| 第15回 | ふりかえりⅡ・反省会      | 第31回 | ふりかえりⅢ・反省会      |
| 第16回 | 前期試験            | 第32回 | 後期試験            |


|  |        |                            |      |      |
|--|--------|----------------------------|------|------|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (情報システム管理論ゼミナール I) |      |      |
|  | ゼミ担当者名 | 瀧森 威                       |      |      |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第 1 グループ)           |      |      |
|  | 開講年次   | 2年次                        | 開講期間 | 通年   |
|  | 開講時限   | 水曜日 1 限                    | 単位数  | 2 単位 |

|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | 最新の情報や I T 技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。   |
| ゼミの概要     | I T 関連の著名な人間をテーマに、コンピュータの歴史と当時の開発現場での人間模様や背景を学びます。I T 関連資格の取得に向けた知識と実技の習得と実践を行います。学生が社会人になるための基本的な資質を磨きます。  |
| ゼミの到達目標   | 社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。情報リテラシー能力を身に付ける。  |
| 授業時間外の学習  | 情報や I T の技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。多くのソフトウェアを使いこなす。   |
| 履修条件      | コンピュータ入門やコンピュータ利用技術 I を修得している学生が望ましい。   |
| テキスト      | 情報や I T 関連に関するプリント、資格取得のためのプリント   |
| 参考文献・資料   | 講義中に適宜紹介します。I T パスポート関連、日商 P C 検定関連、MS 検定関連資料。  |
| 成績評価の方法   | 講義中に実施する実践的課題 50% (知識問題・実技問題・レポート)、試験 50% により判断します。課題は必ず提出することが前提。出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 |
| オフィスアワー   | 毎週 月曜日 16:10~17:50 金曜日 10:40~12:10<br>これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。   |
| 学生へのメッセージ | パソコンを今まで操作したことがない学生にも対応できるベルから学習しますが、油断せずに、遅刻は厳禁です。大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考える。                              |

| 授業計画 |  |      |   |
|------|--|------|---|
| 第1回  | ゼミナールの概論   | 第17回 | 調査研究のための概要<br>(グループ分けとテーマ説明)<br>I T活用能力の習得⑥ (模擬試験 6)      |
| 第2回  | 情報やI T関連の資格取得について  | 第18回 | I T活用能力の習得⑦ (模擬試験 7)<br>最新情報及びI T技術の調査研究班決め<br>秋田県の諸問題班決め |
| 第3回  | ビルゲイツとマイクロソフトについて<br>(ビデオ視聴)                             | 第19回 | I T活用能力の習得⑧ (模擬試験 8)<br>(情報・I T技術班、秋田県の諸問題班調査研究)          |
| 第4回  | ビルゲイツとマイクロソフトについて<br>(ビルゲイツの歩んだ道の解説)                     | 第20回 | I T活用能力の習得⑨ (模擬試験 9)<br>(情報・I T技術班、秋田県の諸問題班調査研究)          |
| 第5回  | スティーブジョブズとアップルについて<br>(ビデオ視聴、<br>スティーブジョブズの歩んだ道の解説)      | 第21回 | I T活用能力の習得⑩ (模擬試験 10)<br>(情報・I T技術班、秋田県の諸問題班<br>中間発表準備)   |
| 第6回  | コンピュータ業界の時代背景について  | 第22回 | 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班<br>中間発表準備                              |
| 第7回  | パソコン黎明期の時代背景と人間模様  | 第23回 | ゼミ内各研究中間発表会   |
| 第8回  | 情報処理技術の基礎知識の習得①<br>(日商P C検定3試験共通の知識科目について)               | 第24回 | I T活用能力の習得⑪ (模擬試験 11)<br>(情報・I T技術班、秋田県の諸問題班<br>改善・改良)    |
| 第9回  | 情報処理技術の基礎知識の習得②<br>(日商P C検定文書作成試験及びデータ活用試験<br>の知識科目について) | 第25回 | I T活用能力の習得⑫ (模擬試験 12)<br>(情報・I T技術班、秋田県の諸問題班<br>改善・改良)    |
| 第10回 | 情報処理技術の基礎知識の習得③<br>(日商P C検定スライド作成試験の<br>知識科目について)        | 第26回 | 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班<br>本番発表準備                              |
| 第11回 | I T活用能力の習得①<br>(文書作成実技試験対策 模擬試験 1 と解説)                   | 第27回 | ゼミ内各研究発表会   |
| 第12回 | I T活用能力の習得②<br>(文書作成実技試験対策 模擬試験 2 と解説)                   | 第28回 | 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班<br>論文作成                                |
| 第13回 | I T活用能力の習得③<br>(データ活用実技試験対策 模擬試験 3 と解説)                  | 第29回 | 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班<br>論文作成                                |
| 第14回 | I T活用能力の習得④<br>(データ活用実技試験対策 模擬試験 4 と解説)                  | 第30回 | 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班<br>論文作成                                |
| 第15回 | I T活用能力の習得⑤<br>(データ活用実技試験対策 模擬試験 5 と解説)                  | 第31回 | 1年間の総括  |
| 第16回 | 前期定期試験   | 第32回 | 後期定期試験  |




[ここに入力]

|   |        |                            |      |     |
|---|--------|----------------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (ヨーロッパの国際関係論ゼミナール) |      |     |
|   | ゼミ担当者名 | デファルコ・リーアアン                |      |     |
|   | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)             |      |     |
|   | 開講年次   | 2年次                        | 開講期間 | 通年  |
|   | 開講時限   | 火曜日3限                      | 単位数  | 2単位 |


|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | <b>Understanding Your World (Let's go Europe!)</b>  |
| ゼミの概要     | <p>下記のテーマについて日本語と英語で授業を行います。研究の範囲は一般的な理論実例にまでおよびます。複雑な考えを優しく発表します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際システムを理解するために様々な国際関係の理論を学びます。例えば) 現実主義、リベラリズム、社会構成主義。</li> <li>2. 「ジョン・ロック」「ジャンージャック・ルソー」「ニッコロ・マキャヴェッリ」等の引用文献を輪読します。</li> <li>3. 「自由」と「正義」のようなテーマについて議論します。</li> <li>4. ヨーロッパの地理・歴史・政治等を学びます。興味を持っている国を選択し、レポートの提出を求めます。</li> </ol> |
| ゼミの到達目標   | <p>国際関係とヨーロッパに対する理解を広げることができる<br/>         国の行動を的確に分析できるようになる<br/>         政治と国際関係に対して、偉大な思想家の考えを要約できるになる<br/>         就職活動の面接のために会話と批判的なスキルを磨くことができる</p>   |
| 授業時間外の学習  | 読書課題とレポート   |
| 履修条件      | 英検準二級 (トイック 500 点) レベルの英語能力が必要です。   |
| テキスト      | なし、資料を配布する  |
| 参考文献・資料   | 『リヴァイアサン』トマス・ホッブズ、『 <u>統治二論</u> 』ジョン・ロック等   |
| 成績評価の方法   | 英語で表現すること 20%、読書を完成されて議論できること 30%、レポート 30%、試験 20%   |
| オフィスアワー   | 毎日の5時限目   |
| 学生へのメッセージ | ヨーロッパの歴史・文化に触れながら、ヨーロッパの国際関係を学ぼう！   |

| 授業計画 |   |      |  |
|------|---|------|--|
| 第1回  | Seminar overview and explanation.<br>Self-introduction.<br>Personal goals and targets interview.        | 第17回 | Update on studies, personal report   |
| 第2回  | Europe map challenge!①<br>Learning the countries in Europe!<br>How many European countries do you know? | 第18回 | The 3 main theories of international relations:<br>Theory 2 - Liberalism ①     |
| 第3回  | Europe map challenge!②<br>A brief history of Europe   | 第19回 | The 3 main theories of international relations:<br>Theory 2 - Liberalism ②     |
| 第4回  | Europe map challenge!③<br>Discussing social contract theory Hobbs①                                      | 第20回 | The 3 main theories of international relations:<br>Theory 3 - Constructivism ① |
| 第5回  | Europe map challenge!④<br>Discussing social contract theory Hobbs②                                      | 第21回 | The 3 main theories of international relations:<br>Theory 3 - Constructivism ② |
| 第6回  | Update on studies, personal report  | 第22回 | Update on studies, personal reports  |
| 第7回  | Europe map challenge!④<br>Discussing social contract theory Locke①                                      | 第23回 | Review and comparison of the 3 theories,<br>discussion.                        |
| 第8回  | Europe map challenge!⑤<br>Discussing social contract theory Locke②                                      | 第24回 | On Freedom:<br>What is freedom? Discussion                                     |
| 第9回  | Europe Map Test<br>Discussing social contract theory Rousseau①  | 第25回 | On Liberty: John Locke<br>Discuss John Locke' s famous work                    |
| 第10回 | Discussing social contract theory Rousseau②   | 第26回 | Update on studies, personal report   |
| 第11回 | Update on studies, personal report  | 第27回 | Machiavelli: How to be a prince<br>Discussing Machiavelli' s famous work       |
| 第12回 | A world without a king?<br>Applying social contract theory to<br>international relations                | 第28回 | Machiavelli: How to be a prince<br>Discussing Machiavelli' s famous work       |
| 第13回 | A world without a king?<br>Applying social contract theory to<br>international relations                | 第29回 | レポート準備   |
| 第14回 | The 3 main theories of international relations:<br>Theory 1 - Realism ①                                 | 第30回 | レポート準備、発表  |
| 第15回 | The 3 main theories of international relations:<br>Theory 1 - Realism ②                                 | 第31回 | レポート発表   |
| 第16回 | 中間テスト   | 第32回 | 定期試験   |

|   |        |                     |      |     |
|---|--------|---------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (表現文化ゼミナール) |      |     |
|   | ゼミ担当者名 | 橋元志保                |      |     |
|   | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)      |      |     |
|   | 開講年次   | 2年次                 | 開講期間 | 通年  |
|   | 開講時限   | 火曜日 3限              | 単位数  | 2単位 |

|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | 大学生にふさわしい教養を身につけるために、様々な国々の表現文化（文学表現・音楽表現・映像表現他）に触れ、深く理解し、表現する力を涵養する。   |
| ゼミの概要     | 本ゼミナールでは、日本や欧米の文学を題材に、小説や論理的な文章を楽しみながら読むことのできる、読解力を養いながら、音楽や絵画、映像といった表現文化に触れ、大学生にふさわしい教養を身につけることを目的とする。いくら専門的な知識を身につけても、精神的な成長を促す様々な文化に触れなければ、深い思考力や判断力は得られず、国際的に活躍する有為の人材となることは難しい。「博学の人は、常に自分自身の中に富を持っている」とギリシアの格言にもあるように、ぜひ大学生のうちに将来に役立つ精神的な富をしっかりと培ってほしいと考えている。 |
| ゼミの到達目標   | 西洋及び日本の文化、名著に触れ、それを深く理解し、自分の考えを表現することができる。  |
| 授業時間外の学習  | 1. 授業で取り上げる小説や資料を、指定された頁まで必ず読んでおきましょう。難解な語句や漢字は必ず辞書でその意味を調べましょう。<br>2. 毎回課題プリントを配布しますので、授業内容を復習しながら記述し、提出してください。  |
| 履修条件      | 「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」のいずれかを履修し、単位を修得していることが望ましい。  |
| テキスト      | 授業の際に、資料を配布する。  |
| 参考文献・資料   | 西川常一ほか『木のいのち木のこころ』（新潮社）・梅原 猛『日本文化論』（講談社学術文庫）・日本戦没学生記念会編『新版 きけ わだつみのこえ』（岩波書店）・シェイクスピア著 中野好夫ほか訳『筑摩世界文学大系 16 シェイクスピア I』（筑摩書房）ほか  |
| 成績評価の方法   | 【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、試験（50%）】の総合評価とします。<br>① 出席回数が規定に満たない場合は、試験を受けることが出来ません。<br>② 講義中に無許可で退出した場合は欠席とします。<br>③ 出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とします。<br>【成績評価の基準】<br>秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59～0点）   |
| オフィスアワー   | 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 ※これ以外の時間帯は事前に予約してください。  |
| 学生へのメッセージ | 最初は分かりやすく、やさしいテキストから読み始め、段階的に難易度を上げていきますので、真面目に出席していただければ誰でも、読解力・表現力といった国語力を向上させることが出来ます。また、文学作品が映像化されている『海賊と呼ばれた男』『ロミオとジュリエット』等は、素晴らしい映画を見ながら、楽しく分かりやすく学んでいきます。国語が苦手な人、教養を身につけたい人、公務員を目指している人には、特にお勧めです。   |

| 授業計画 |                                 |      |                                    |
|------|---------------------------------|------|------------------------------------|
| 第1回  | 表現文化とは何か<br>文学表現・音楽表現・映像表現について  | 第17回 | 文化とは何か<br>梅原 猛『日本文化論』を読む           |
| 第2回  | 日本文化とは何か<br>西岡常一『木のいのち木のころ』を読む① | 第18回 | 日本の文化とは何か<br>小林秀雄の随筆を読む①           |
| 第3回  | 日本文化とは何か<br>西岡常一『木のいのち木のころ』を読む② | 第19回 | 日本の文化とは何か<br>小林秀雄の随筆を読む②           |
| 第4回  | 日本文化の源流<br>法隆寺と仏教文化・古都奈良の魅力     | 第20回 | 日本の文化とは何か<br>加藤周一の随筆を読む            |
| 第5回  | 日本文化の源流<br>『源氏物語』と古都京都の魅力       | 第21回 | 小説の構造<br>芥川龍之介『羅生門』を読む             |
| 第6回  | 日本文化の源流<br>『枕草子』と古都京都の魅力        | 第22回 | 物語を語るのは誰か<br>芥川龍之介『藪の中』を読む         |
| 第7回  | 旅と文学<br>『平家物語』と厳島神社の魅力          | 第23回 | 登場人物とは何か<br>芥川龍之介『地獄変』を読む①         |
| 第8回  | 旅と文学<br>『平家物語』と古都鎌倉の魅力          | 第24回 | ストーリー・プロットとは何か<br>芥川龍之介『地獄変』を読む②   |
| 第9回  | 旅と文学<br>『奥の細道』と東北の魅力            | 第25回 | 欧米文学の名著を読む<br>シェイクスピア『ロミオとジュリエット』① |
| 第10回 | 漂泊の詩人<br>石川啄木『一握の砂』を読む          | 第26回 | 欧米文学の名著を読む<br>シェイクスピア『ロミオとジュリエット』② |
| 第11回 | 漂泊の詩人<br>石川啄木『悲しき玩具』を読む         | 第27回 | 欧米文学の名著を読む<br>シェイクスピア『ロミオとジュリエット』③ |
| 第12回 | 現代文学と戦争<br>『きけわだつみのこえ』を読む①      | 第28回 | 欧米文学の名著を読む<br>シェイクスピア『ハムレット』①      |
| 第13回 | 現代文学と戦争<br>『きけわだつみのこえ』を読む②      | 第29回 | 欧米文学の名著を読む<br>シェイクスピア『ハムレット』②      |
| 第14回 | 現代文学と戦後<br>百田尚樹『海賊と呼ばれた男』を読む①   | 第30回 | 欧米文学の名著を読む<br>シェイクスピア『ハムレット』③      |
| 第15回 | 現代文学と戦後<br>百田尚樹『海賊と呼ばれた男』を読む②   | 第31回 | 世界の中の日本文学<br>川端康成から、カズオ・イシグロまで     |
| 第16回 | 前期試験                            | 第32回 | 後期試験                               |

|  |        |                      |      |     |
|--|--------|----------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナールI (キャリアプランニングI) |      |     |
|  | ゼミ担当者名 | 横田 恵三郎               |      |     |
|  | 科目分類   | 専門科目群 (第1グループ)       |      |     |
|  | 開講年次   | 2年次                  | 開講期間 | 通年  |
|  | 開講時限   | 火曜日3限                | 単位数  | 2単位 |

|           |   |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ    | キャリアプランニングの基礎を学び、その考え方と重要性を理解した上で観光業界・企業、職種を把握したうえで、プランニングを立ててみる。   |
| ゼミの概要     | 充実した幸せな仕事や人生を送るためにキャリアプランニングの概念を学び、これまでの人生を振り返りつつ3年生後期に向け、実際に目標と計画を立て、就職先として観光企業を選択する動機付けを得ることを目的とする。                 |
| ゼミの到達目標   | 観光企業の中での就職先の方向性を得ること  |
| 授業時間外の学習  | 観光企業やその業界について日々情報の収集にあたること。   |
| 履修条件      | 今年度の観光インターンシップを履修する学生でかつホテル、旅行会社、航空会社、鉄道会社等の観光企業に進路を定めようとイメージしている2年生  |
| テキスト      | その都度プリントを配付する。  |
| 参考文献・資料   | その都度案内する。   |
| 成績評価の方法   | 定期試験 50%、取組姿勢 50%とし総合的に評価する。  |
| オフィスアワー   | 火曜日午前中、木曜日午前中   |
| 学生へのメッセージ | 一口に観光企業と言ってもホテル、旅館、旅行会社、鉄道会社、航空会社等たくさんの業界、企業があります。また、職種もいろいろあります。それらの調査、研究を行なった上で、自己分析を経て1年間をかけて進むべき方向性を得て欲しいと思っています。 |

| 授業計画 |   |      |                     |
|------|---|------|---------------------|
| 第1回  | オリエンテーション① (トライアル参加)<br>キャリアプランニングとは        | 第17回 | グループワーク演習①          |
| 第2回  | オリエンテーション②(トライアル参加)<br>キャリアプランニングとは<br>個人面談 | 第18回 | グループワーク演習②          |
| 第3回  | 自己紹介<br>個人面談                                | 第19回 | グループワーク演習③          |
| 第4回  | 就職試験の種類と概要                                  | 第20回 | 観光企業担当者の講演①、レポート作成  |
| 第5回  | 観光にはどんな業界や企業があるか                            | 第21回 | レポートの発表とディスカッション    |
| 第6回  | 業界・企業 研究発表①                                 | 第22回 | キャリアプランニング演習①       |
| 第7回  | 業界・企業 研究発表②                                 | 第23回 | キャリアプランニング演習②       |
| 第8回  | 自己分析、これまでの振り返り                              | 第24回 | 敬語の使い方              |
| 第9回  | 自己分析に基づく自己PRの作成演習                           | 第25回 | ビジネスマナー①            |
| 第10回 | 先輩の昨年度インターンシップ体験談<br>レポート作成                 | 第26回 | ビジネスマナー②            |
| 第11回 | レポートの発表とディスカッション                            | 第27回 | 就職筆記試験演習①<br>一般・SPI |
| 第12回 | 自己紹介書の作成演習                                  | 第28回 | 就職筆記試験演習②<br>一般・SPI |
| 第13回 | ビジネスメール発信の演習                                | 第29回 | 就職筆記試験演習③<br>一般・SPI |
| 第14回 | 接客五原則                                       | 第30回 | 就職筆記試験演習④<br>時事問題   |
| 第15回 | まとめ   | 第31回 | まとめ                 |
| 第16回 | 前期定期試験                                      | 第32回 | 後期定期試験              |